

ことがあります。

- ・咽頭炎：喉に粘液がからまります。
- ・扁桃炎，喉頭炎：左側
- ・頸部リンパ腺，甲状腺，乳腺，唾液腺の腺組織の腫脹：炎症はゆっくりと進行します。とくに左側。

■生殖器系

- ・左の精巣や卵巣の炎症による硬結や腫瘍
- ・腔内のガス（Lycopodium）
- ・月経困難症：生理前になると活力がなくなります。生理は早く量は多めになります。

■その他

- ・結膜炎
- ・めまい：川にかかる橋などから水の流れを見ると、めまいがします。
- ・左側の頭痛

MODALITY

➤ 運動，海，鼻血，ひげ剃り，乗馬など

◀ 暖かさ，湿った暖かさ，夜，暖かい部屋，埃，隙間風，左下に寝ること，冷たい空気，寒さ，冷水，冷たい食事，寒く湿った気候，太陽の熱など
Iodium, Phosphorus, Spongiaのあとにもよく使

用されます。

RELATIONS

- ・ Antidotes : Ammonium carbonicum, Camphora, 塩
- ・ Antidoted by : Camphora, Ammonium carbonicum, Magnesia carbonica, Opium
- ・ Compatible : Argentum nitricum, Kali carbonicum

●主な臭素のレメディ

Aethylum bromidum, Aluminium bromatum, Ammonium bromatum, Argentum bromatum, Arsenicum bromatum, Aurum bromatum, Baryta bromata, Bromium, Bromium acidum, Bromium iodatum, Bromazepam, Bromoformium, Cadmium bromatum, Calcareo bromata, Camphora bromata, Conium bromatum, Ferrum bromatum, Hydrobromicum acidum, Hyoscinum bromhydricum, Kali bromatum, Lithium bromatum, Magnesia bromata, Mercurius bromatus, Natrum bromatum, Niccolum bromatum, Radium bromatum, Strontium bromatum, Zincum bromatum

Bryonia alba ブライオニア [粘膜の乾燥，わずかな動きで悪化，喉の渇き]

Bryonia alba L.

BACK GROUND

Bryonia albaは，Wild hopsあるいはWhite bryonyと呼ばれるヨーロッパ，西アジア原産のウリ科の蔓性植物です。ウリ科には他にもColocynthisがあります。掌状の葉と緑がかった白の花をもち，黒い実を付けます。根はとても大きく，10kgに達するものもあるほどです。それほど，根の部分の成長と蓄えにすべての力が注がれています。Bryoniaには，ユーラシア大陸から北アフリカ原産のBryonia dioicaと，ヨーロッパから西アジア原産のBryonia albaがあり，この両者は，形も成分も非常に似ています。ホメオパシーではBryonia albaが使われます

古代ギリシア，ローマでは，この植物をてんかん，めまい，麻痺，痛風，ヒステリー，傷，咳などに用いていました。この植物の塊根は，臭くて苦く，食べると猛毒で，消化管粘膜の炎症から死にいたりします。と

くにフランスでは，離乳する子をもつ母親が乳の出を減らすためのハーブとして使用され，中毒を起こすことが多く，Devil's turnipと呼ばれていました（ホメオパシーでも乳房の腫れ，硬結，痛みにも使われます）。

Bryoniaのつるは，ゆっくりと伸びていくのが特徴です。そのため，急激な変化や病気の進行が非常に早い場合は，BryoniaよりもAconiteやBelladonnaが必要な場合もあります。Bryoniaは，急性疾患のレメディですが，症状は2，3日かけて進行していくことが多いようです。また，この植物の根は大きく膨らみ水分を蓄えているため，乾燥地でも生育できます。そのためBryoniaは，乾燥が特徴の1つです。すべての粘膜が乾燥します。すなわち，患部（口や呼吸器，関節など）は乾燥して滑らかさが感じられません。

関節が乾燥すると，わずかな動きでも関節の症状が悪化します。だから，まったく動こうとしません。き



つい圧迫で楽になります。

呼吸器系が乾燥すると、咳も乾いて痛みを伴い、チクチクした痛みを感じることがあります。消化管が乾燥すると、便秘になります。非常に喉も乾き、冷たい飲物を大量に欲しがります。

この植物の根には、非常に多くの有効成分が含まれていますが、代表的なものとしては、糖質、脂質、各種ステロール、精油、微量元素群、キューカビタシンなどがあります。キューカビタシンは、化学構造がステロイドによく似ています。

MATERIAL

開花期直前の時期の塊根

FIRST PROVING

ハーネマン（『Materia medica Pura』第2巻、1834）

MIND

この地下の塊根の蓄えが象徴するように、Bryonia タイプの人は、物質世界に身も心も根ざしています。心や精神世界といったものには興味がありませんので、安心感を得るために、お金や財産といった物質的なものに心の拠り所を見出します。そのため、物欲が強く、財産保護に神経を使います。いつでも仕事やお金の話をしがります。経済的な破綻に対する恐怖感や、将来に対する不安感をもっています。彼らの生活の基盤になっている財産が不安定になったときには、イライラしたり、不安にかられ、落ち込んでしまいます。

気むずかしくて、人に干渉されるのが嫌いで、1人でいるのを好みます。これは、Bryoniaが地下に塊根として蓄えるのと似ています。このタイプは、心の深層に不安感や脆弱性をもっており、自分を守るために

隠れようとします。

気が向かないと質問をしても答えてくれないかもしれません。イライラすることも多いからです。とにかく喉が渇きます。冷たい水を多量に欲しがりますが、温かい飲物でも症状が改善します。とくに温めた牛乳を好みます。食べ物では、肉や牡蠣が好きです。一般に、温血タイプです。

AFFINITY

Bryoniaは、とくに粘膜、漿膜に強い親和性をもっています。粘膜の乾燥がキーポイントです。また、発熱性の疾患時にも使用されます。

CLINICAL APPLICATIONS

■粘膜

- ・鼻炎：粘膜が乾燥しています。
- ・気管支炎、肺炎：乾いた咳が出ます。ほんのわずかな動きや暖かい部屋で悪化します。
- ・便秘：便が大きく、硬く、乾燥しているのが特徴です。直腸粘膜は触診すると乾燥しています（慢性になると Alumina です）。
- ・胃炎：動くとき気持ちが悪いです。動けません。飲食で吐き気がします。温かい飲物では改善することがあります。

■漿膜

- ・胸膜炎
- ・心膜炎
- ・外傷、捻挫、脱臼：少しでも動くとき痛みが増す場合。
- ・関節炎、関節水腫、リウマチ：Apisと交互に処方することがあります。痛みはわずかな動きでも悪化しますので、できるだけ安静にして動きませんが、ときに痛みが非常に強い場合は、落ち着かず、痛みが悪化するにもかかわらず、動いてしまうことがあります。

■おたふく風邪

■熱性疾患ほか

- ・Bryoniaの特徴をもつ発熱性疾患：喉が非常に渇きます。大量の冷たい水を欲しがります。わずかな動きで悪化します。汗をかくことで楽になります。熱は、AconiteやBelladonnaの熱よりもややゆっくりと進行し、数日続きます。
- ・頭痛：熱があり、頭痛はわずかな眼の動きでさえ、動くことで痛みが悪化します。痛みは左側が多いようです。咳で頭痛が悪化します。
- ・インフルエンザ
- ・乳腺炎：乳腺は腫れて重く、わずかな動きでも痛みが走ります。

・盲腸炎

MODALITY

- 患部を強く圧迫する、痛みのあるほうを下にして横になる、涼しい外気、発汗、温かい飲物など
- 動き、触られること、寒さ、冷たい風、乾燥した気候、暑さ、締め切った暑い部屋、食べること、ドライフード、パン、冷たい飲物、午後9時頃、朝起床時など

RELATIONS

- ・ Complementary : Alumina, Rhus toxicodendron
- ・ Antidotes : Aconite, Chamomilla, China, Chlo-

rum aqua, Fragaria vesca, Nux vomica, Rhus toxicodendron

- ・ Antidoted by : Aconite, Alumina, Camphora, Chamomilla, Chel, Clem, Ignatia, Muriaticum acidum, Pulsatilla, Rhus toxicodendron, Senega, Ferrum met

●主なウリ科のレメディ

Cucurbitaceae (Cucumber) : Bryonia alba, Colocynthis, Cephalandra indica, Citrus vulgaris, Colocynthinum, Cucumis sativus, Cucurbita citrullus, Cucurbita melo, Cucurbita pepo, Elaterium officinarum, Luffa amara, Luffa actangula, Luffa bindal, Luffa operculata, Momordica balsamica, Momordica charantia, Momordica purgans, Trichosanthes dioica

Bufo rana ヨーロッパヒキガエルの毒 [知能発達の遅れ, リンパ節炎]

Rana bufo L.

Bufo bufo

BACK GROUND

Bufo bufoは、両生綱無尾目ヒキガエル科ヒキガエル属のカエルです。本種は、ヨーロッパに棲息するもっともふつうのヒキガエルなので、学名もヒキガエルの中のヒキガエルということでBufo bufoとなっています。レッドデータブックには記載されていませんが、国によってはその数が激減しているので保護されてい



ます。一般名は、Common Toad, Brazilian toadなどと呼ばれています。昆虫などの小動物を主食にし、長い舌をのばして獲物を捕らえ、口の中に入れてしまいます。寿命は、30年くらいと言われています。体長

は、70～180mmです。雄は小さく、雌は大きくなります。地上棲で畑、林、草原など広く分布しています。皮膚は乾燥していて、いぼが多数あります。繁殖期は3月中旬で、水場集まり産卵をします。雌は一度に2,000個もの卵を産みます。繁殖期には、とくに雄の背中の色は黄色や緑色、茶色などに変わります。雄だけが、ケロケロと鳴き声を出します。また、他のカエルと比べて足がやや短めでジャンプ力も弱めですが、これは毒で身を守るからだと推測されています。

蛙の中では比較的大型になるBufoは、ブフォトキシシンという毒を耳の後ろにある耳腺や皮膚のいぼにもっていて、その毒は体全体を覆っています。ブフォトキシシンと呼ばれる毒の有効成分については、数種の成分が判明しており、その1つにブフォテニンと呼ばれるアミン系の毒があり、これは粘膜に接すると神経系統に作用する毒で、セロトニンを分泌促進し、幻覚作用があります。もう1つはブフォタリンというステロイド系の毒で、猛毒です。ブフォタリンは、口腔や粘膜に付着すると心筋に作用します。これらの毒は、少量であればジギタリスのような心臓の活動を活発にする効果や血圧上昇作用をもち、また、この2つの毒は、局部麻酔や鎮痛作用、止血効果もあるそうです。ほかには、エピネフリン、ノルエピネフリン、ブフォテニ